

下諏訪町中学校部活動地域移行推進計画 (案)

令和●年●月●日

下諏訪町教育委員会

◆はじめに

部活動は、スポーツ・文化・芸術に興味や関心がある生徒が自主的・自発的な参加により行われるもので、学校教育の一環として学習指導要領にも位置付けられた活動として、中学生のスポーツ振興・文化芸術振興を担ってきました。

また、この日本独自の教育システムは部活動を通した責任感や連帯感を養うとともに、生徒の学びと成長に大きな教育的な役割を果たしてきました。

しかし、少子化が進展する中でこれまでと同様の運営体制ではその活動を維持していくことが困難な状況であり、将来を見通すと存続できない部活動が出てくることも想定されております。

併せて、少子化が進み生徒数も減少する中、教職員も同様に減少する現状にも関わらず、これまでは教職員の献身的な指導により支えられてきましたが、専門性や本人の意思に関わらず顧問を務めている状況や指導に起因する長時間労働は、学校の働き方改革における議論を生んでおり、これまでの指導体制を今後も継続することは、大変厳しい状況となっております。

このような状況を受け、スポーツ庁及び文化庁（以下、「国」とする。）では、部活動を地域活動への移行を目指し「運動部活動の地域移行に関する検討会議」及び「文化部活動の地域移行に関する検討会議」を組織し、検討を行うとともに、令和4年12月には「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定し、「令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間と位置づけ、地域連携・地域移行に取り組みつつ、各地域の実情に合わせてまずは休日の部活動の地域移行を推進する」としています。

長野県においては、国の動向を踏まえて令和5年2月、新たな地域クラブ活動の環境整備の方向性を検討する「長野県地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会」を設置し、「長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針」を策定するとともに、新たな地域クラブ活動への移行を推進することを目的とした、「長野県地域クラブ活動推進ガイドライン」が策定されております。

下諏訪町では、令和5年度に「下諏訪町部活動地域移行準備会」（以下、「準備会」とする。）を組織し、学校関係者やスポーツ協会関係者等との協議を重ね、令和6年度は取り組みを加速させ、「下諏訪町部活動地域移行検討協議会」（以下、「検討協議会」とする。）により、地域移行に向けた準備を進めているところであります。

下諏訪町中学校部活動地域移行推進計画は、国及び長野県のガイドラインを踏まえつつ下諏訪町の実情に合わせ、かつ将来の少子化による影響も鑑み、基本方針及び方向性を示すものになります。

◆目 次

はじめに

第1章	学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する 総合的なガイドラインの概要・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第2章	長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針の概要及び 県の中学校部活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	5
第3章	下諏訪町の中学校部活動の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	7
第4章	令和5年度 下諏訪町部活動地域移行準備会における検討状況・・・・・・・・	9
第5章	部活動の地域移行に関するアンケート調査結果・・・・・・・・	12
第6章	基本目標と基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・	27
第7章	下諏訪町（下諏訪町教育委員会）が取り組むこと・・・・・・・・	28
第8章	地域移行の進め方・スケジュール・・・・・・・・	29
第9章	スポーツ・文化活動等の受け皿組織の整備と運営について・・・・・・・・	30
第10章	その他・・・・・・・・	31

第 1 章 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインの概要

下諏訪町部活動地域移行推進計画で基本方針及び方向性を示すにあたり、国の考え方を示すものとして、令和 4 年 12 月に国が策定したガイドラインの概要は以下のとおりとなります。（引用：スポーツ庁 文化庁、学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン【概要】令和 4 年 12 月）

○少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要。その際、生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要。

○令和 4 年夏に取りまとめられた部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、平成 30 年に策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を統合した上で全面的に改定。これにより、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、国の考え方を提示。

○部活動の地域移行にあたっては、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識のもと、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備。地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。

I 学校部活動

教育課程外の活動である学校部活動について、実施する場合の適正な運営等の在り方を、従来のガイドラインの内容を踏まえつつ示す。

（主な内容）

- ・教師の部活動への関与について、法令等に基づき業務改革や勤務管理
- ・部活動指導者や外部指導者を確保
- ・心身の健康管理、事故防止の徹底、体罰・ハラスメントの根絶の徹底
- ・週当たり 2 日以上 of 休養日の設定（平日 1 日、週末 1 日）
- ・部活動に強制的に加入させることがないようにする

- ・地方公共団体等は、スポーツ・文化芸術団体との連携や保護者等の協力のもと、学校と地域が協働・融合した形での環境整備を進める

II 新たな地域クラブ活動

学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方を示す。

(主な内容)

- ・地域クラブ活動の運営団体・実施主体や整備充実
- ・地域スポーツ・文化芸術担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制の整備
- ・指導者資格等による質の高い指導者の確保と、都道府県等による人材バンク整備、意欲ある教師等の円滑な兼職兼業
- ・競技志向の活動だけでなく、複数の運動種目・文化芸術分野など、生徒の志向等に適したプログラムの確保
- ・休日のみ活動をする場合も、原則として1日の休養日を設定
- ・公共施設を地域クラブ活動で使用する際の負担軽減・円滑な利用促進
- ・困窮家庭への支援

III 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

新たなスポーツ・文化芸術環境の整備にあたり、多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組むため、その進め方について示す。

(主な内容)

- ・まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進
- ・平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進
- ・市区町村が運営母体となる体制や地域の多様な運営団体が取り組む体制など、段階的な体制の整備を進める
- ・地域クラブ活動が困難な場合、合同部活動の導入や、部活動指導員等により機会を確保
- ・令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す
- ・都道府県及び市区町村は、方針・取組内容・スケジュール等を周知

IV 大会等の在り方の見直し

学校部活動の参加者だけでなく、地域クラブ活動の参加者のニーズ等に応じた大会等の

運営の在り方を示す。

（主な内容）

- ・大会参加資格を、地域クラブ活動の会員等も参加できるよう見直し（日本中体連は、令和5年度から大会への参加を承認）
- ・できるだけ教師が引率しない体制の整備、運営に係る適正な人員確保
- ・全国大会の在り方の見直し（開催回数の精選、複数の活動を経験したい生徒等のニーズに対応した機会を設ける等）

第2章 長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針の概要及び長野県の中学校部活動の状況

1 長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針の概要

令和6年3月に県が策定した「長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針」の概要は以下のとおりです。

（引用：長野県教育委員会、長野県地域クラブ活動推進ガイドライン 令和6年3月）

◆策定のポイント

- ・「長野県中学生期のスポーツ活動指針」と「長野県中学校の文化活動方針」を統合する。
- ・学校部活動が地域に移行された場合の「新たな地域クラブ活動」においても、新指針を適用する。

◆学校部活動

- ・「適切な運営のための体制整備」、「合理的かつ効率的・効果的な活動の推進のための取組」、「適切な休養日と活動時間等」については、原則としてこれまでの内容を踏襲する。
- さらに、「生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術環境の整備」、「学校部活動の地域との連携」、「大会等の在り方の見直し」を推進する。

◆新たな地域クラブ活動

- ・生徒が生涯にわたってスポーツ・文化芸術に親しむ機会を確保し、生徒の心身の健全育成等を図るためだけでなく、地域住民にとってもより良い地域スポーツ・文化芸術環境を目指し、地域のスポーツ・文化芸術団体、学校等の関係者の理解と協力の下、生徒の活動の場として、地域クラブ活動を行う環境を速やかに整備する。

◆新たな地域クラブ活動への移行の目的

- ・地域において子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化芸術に親しめる環境を構築する。
- ・教員の働き方改革を推進し、学校教育の質の向上を図る。

◆移行スケジュール

- ・原則として、休日・平日ともに、全ての学校部活動を新たな地域クラブ活動に移行する。
- ・国が示す令和 7 年度までの改革推進期間中に新たな地域クラブ活動の環境整備を鋭意進め、可能な限り早期の実現を目指しつつ、地域の実情に応じ、令和 8 年度末を目途に休日の学校部活動の地域クラブ活動への移行完了を目指す。
- ・平日はできるところから移行を進め、平日の移行が難しい場合でも生徒の活動を保障しつつ、日課の調整等により教員の勤務時間外の部活動指導を減らす工夫を検討・実施する。
- ・県教育委員会は、令和 7 年度までの移行状況を調査・検証し、改めて平日の移行について方針を示す。

2 長野県の中学校部活動の状況

長野県の中学校部活動の状況は以下のとおりです。

(参考：長野県教育委員会, 長野県地域クラブ活動推進ガイドライン, 令和 6 年 3 月)

〔表 1 長野県の中学校の生徒数 (人)〕¹

年	2002 年 (H14)	2007 年 (H19)	2012 年 (H24)	2017 年 (H29)	2022 年 (R4)	2027 年 (R9)	2032 年 (R14)
生徒数	69, 210	62, 567	61, 250	56, 201	52, 019	49, 429	42, 601

※全国的に少子化が進む中、長野県でも少子化が加速しており、2002 年から 2032 年までの 30 年間で中学校の生徒数は約 4 割 (26, 000 人以上) 減少する見込みとなっています。

〔表 2 長野県の中学校合同チームによる大会参加数の推移 (校)〕²

年	2015 年 (H27)	2016 年 (H28)	2017 年 (H29)	2018 年 (H30)	2019 年 (R1)	2020 年 (R2)	2021 年 (R3)	2022 年 (R4)
新人大会	27	37	42	65	75	81	97	116
夏季大会	9	14	18	27	42	65	71	78

※少子化の影響に伴う部員数の減少が活動の形態に影響しており、合同チームを編成しての大会参加数が年々増加傾向にあります。

¹ 企画振興部総合政策課 令和 4 年 (2022 年) 10 月 1 日現在 長野県の年齢 (各歳) 別・男 女別人口をもとに算出

² 長野県教育委員会スポーツ課 部活動調査

〔表 3 長野県吹奏楽コンクール中学生の部における編成別出場団体の推移（団体）〕

年	2015 年 (H27)	2016 年 (H28)	2017 年 (H29)	2018 年 (H30)	2019 年 (R1)	2020 年 (R2)	2021 年 (R3)	2022 年 (R4)
A 編成	109	103	103	101	97	中止	81	80
B 編成	59	63	62	65	69		82	79
B 編成 (合同)	2	2	3	1	2		1	2

※部員数の減少により A 編成（大編成）が減少し、B 編成（20 人以下）の団体数が増加しています。

〔表 4 長野県の中学生の運動部加入率（％）〕

年	2015 年 (H27)	2016 年 (H28)	2017 年 (H29)	2018 年 (H30)	2019 年 (R1)	2020 年 (R2)	2021 年 (R3)	2022 年 (R4)
加入率		58.9	58.5	57.4	56.6	54.6	54.1	53.1

※運動部への加入率は年々減少しています。その要因としては、地域のスポーツクラブへの加入率が増加していることに加え、生徒数の減少による運動部の統廃合により生徒が選択することができる部活動が減少していることが考えられます。

第 3 章 下諏訪町の中学校部活動の状況

下諏訪中学校（以下、「下中」とする。）及び下諏訪社中学校（以下、「社中」とする。）の中学校部活動の状況は以下のとおりです。

〔表 5 下諏訪町の中学生の生徒数（人）〕

年	2002 年 (H14)	2007 年 (H19)	2012 年 (H24)	2017 年 (H29)	2022 年 (R4)	2027 年 (R9)	2032 年 (R14)
生徒数	574	558	555	502	492	398	332

※生徒数は 2002 年から 2032 年の 30 年間で約 4 割（240 人以上）減少する見込みとなっています。（平成 29 年度及び令和 4 年度の生徒数は町外就学者等を含む）

3 長野県吹奏楽連盟 HP 掲載の大会出場校数をもとに算出

4 長野県教育委員会スポーツ課 部活動調査

〔表 6 下諏訪町の部活動の部員数(人)〕

(令和 6 年 10 月現在)

種 目	部員数 ※ 1、2 年生			顧問数		外部指導 者の状況	備 考
	下中	社中	合計	下中	社中		
サッカー部	9	4	13	0	2	社中 4	社中が 拠点校
ボート部	12	0	12	2	0		
男子ソフトテニス部	12	0	12	1.5	0		
女子ソフトテニス部	11	5	16	1.5	2	下中 1	
男子バレーボール部	6	0	6	1.5	0		
女子バレーボール部	4	0	4	1.5	0		岡谷東部 と合同
野 球 部	10	4	14	2	1		下中が 拠点校
男子バスケットボール部	12	8	20	1.5	1	下中 1 社中 1	
女子バスケットボール部	9	4	13	1.5	1	社中 1	R6.9～ 下中社中 で合同
陸 上 部	4	0	4	2	0		
吹 奏 楽 部	15	13	28	2	2		
美 術 部	26	16	42	1	1		
計	130	54	184	18	10	下中 2 社中 6	

※サッカー部及び野球部は拠点校部活動として活動しており、女子バレーボール部及び女子バスケットボール部は合同チームとして大会へ出場していることから、チームとして必要な部員数が不足する部活動が増加しています。

第4章 令和5年度 下諏訪町部活動地域移行準備会における検討状況

1 開催日程

令和5年度は準備会及び種目ごとの打ち合わせを以下のとおり開催しました。

年	日付	内容
令和5年	5月17日（水）	第1回部活動地域移行準備会
	10月11日（水）	第2回部活動地域移行準備会
令和6年	1月11日（木）	サッカー部打ち合わせ
	1月12日（金）	ボート部打ち合わせ（下諏訪町漕艇協会）
	1月15日（月）	ソフトテニス部打ち合わせ
	1月17日（水）	バレーボール部打ち合わせ
	1月18日（木）	野球部打ち合わせ
	1月19日（金）	バスケットボール部打ち合わせ
	2月7日（水）	陸上部打ち合わせ
	3月5日（火）	ボート部打ち合わせ（長野県ローイング協会）

2 主な現状・課題について

（1）学校の現状と課題

【下中】

- ・指導者3名と外部指導者契約を締結している。〔男子バスケットボール部、女子ソフトテニス部、器械体操（部活はない）〕
- ・部活動の枠を超え、社会体育の指導も教員が兼任している部活がある。

【社中】

- ・生徒数の減少に加え教職員数も減少しており、人数が必要な種目については、部活動の維持が難しい。
- ・野球部は令和6年度から募集停止予定。（入部希望者がいれば下中と合同で行うことも視野に入れている。）

【文化部】

- ・吹奏楽部は、下中と社中で合同バンドを組み、コンクールに参加している。
- ・美術部は、それぞれの学校で活動している。

（2）下諏訪町スポーツ協会（以下、「スポーツ協会」とする。）の現状と課題

- ・高齢化による指導者の成り手不足。
- ・若い層の指導者育成には励んでいるものの、家庭の事情により進展しない。

(3) 種目ごとの意見等

【サッカー部】

- ・下中にサッカー部はないが、社中と合同チームを組んでいる。(委任指導方式)
- ・スポーツ協会の指導者は4名(社中卒業生)いる。
- ・スポーツ協会サッカー部での受け入れを前向きに検討したい。

【ボート部】

- ・下諏訪町漕艇協会が生徒たちの指導を行うことは、生徒たちのレベルの高さや艇の違いから難しい。
- ・諏訪湖ローイングクラブとして受け入れを行ううえでは、現時点では平日までの指導は難しいが、まずは休日ということであれば、土曜日から進めていく方向で前向きに検討したい。

【ソフトテニス部】

- ・下中女子ソフトテニス部では、外部指導者が付き指導しているが、男子には外部指導者はいないため、保護者に指導を依頼している。
- ・岡谷市にはオムニコート(砂入り人工芝コート)があり、冬期も練習が可能。
- ・町施設の予約は、顧問が予約を行ったり、保護者に依頼したりするなどして対応している。予約ができなければ練習ができない。

【バレーボール部】

- ・部活動ではなく、町外のクラブチームに所属している生徒が非常に多い。
- ・理由は、今後部活動がどうなっていくのか不透明であるためだと思われる。
- ・女子バレー部においては、すでに手遅れで、下諏訪町としての方針を出すのであれば、早急をお願いしたい。
- ・スポーツ協会バレーボール部としては、来年度に関しては現状維持でお願いしたい。その先のことについては、保護者との話し合いも必要だと考えている。

【野球部】

- ・下諏訪第三野球部(以下、「第三野球部」とする。)で受け入れをする方向で進めていきたいと考えている。
- ・野球部には在籍しているが、第三野球部には在籍していない生徒もいるが、今後地域移行を進めていく段階では、どちらにも在籍することを理解してもらわないと、いずれ第三野球部に在籍していない生徒は大会への出場ができなくなる。
- ・できるだけ早い段階で形にしてあげたほうが生徒たちにとっても良いと思うので移行が本格化する前から第三野球部としては動いていきたい。
- ・地域移行する中では、使用料についても見直しをお願いしたい。

【バスケットボール部】

- ・スポーツ協会バスケットボール部としては受け入れる方向で、クラブチームを作ろうと検討している。
- ・下中は男女ともに外部のクラブチームにも入会している生徒が多い。
- ・社中は男女ともに外部のクラブチームに入会している生徒はいない。
- ・社中は、来年度の中体連まではチームとして活動できるが、新人戦からは厳しくなる。
- ・まずは受け皿が必要で、受け皿さえあれば、その中で経験者と初心者でクラスを分けることもできるし、一つのチームとして一緒に活動することもできる。

【陸上部】

- ・現状、指導者が長距離しかいないことが課題であるが、スポーツ協会陸上部で受け入れは前向きに検討したい。
- ・令和6年度から土曜日は9時半に来てもらえれば、一緒に練習できるように体制づくりを行う。（冬期は高木公園周辺）

3 総 括

バレーボールを除く6種目において、スポーツ協会または長野県ローイング協会でも前向きな回答を得られました。バレーボール部においては、指導者や競技人口数の減少により、現状の状態では受け入れは難しいという趣旨の回答がありましたが、地域移行に対して消極的な考えではなく、どのような形でもやりたい子どもがいれば練習ができる環境を維持する姿勢でのご回答でした。

ヒアリング結果から、全競技を対象に地域移行のタイミングを一律にすることは難しい状況であり、移行が可能な競技から随時移行する方向で検討したいと考えます。

地域移行にあたっては、練習会場の予約体制や備品使用料などにおいて検討が必要なため、令和6年度以降、更に研究する必要があります。

謝礼については、国・県の具体的な財政措置が示されていませんが、下諏訪町としてどの程度の経費が必要なのか、近隣市町村の動向も踏まえて令和6年度に研究していく必要があります。

令和6年度において、上記検討事項を含めた地域移行に関する具体的な方向性を決定するため、「下諏訪町部活動地域移行検討協議会」を設置します。

第5章 部活動の地域移行に関するアンケート調査結果

下諏訪町では、部活動の地域移行に関するアンケート調査を行いました。調査結果は以下のとおりです。

◆実施期間 令和6年9月11日（水）から10月11日（金）

◆調査対象者 町内小学校児童（5年生及び6年生）、町内中学校生徒（1年生から3年生）
保護者、教職員

1. 児童生徒回答者所属校	回答数（人）	回答率（％）
下諏訪南小学校	159	39.1
下諏訪北小学校	52	12.8
小学校計	211	51.8
下諏訪中学校	157	38.6
下諏訪社中学校	39	9.6
中学校計	196	48.2
総計	407	100.0

2. 回答者学年	回答数（人）	回答率（％）
小学5年生	122	30.0
小学6年生	89	21.9
中学1年生	44	10.8
中学2年生	42	10.3
中学3年生	110	27.0

3. スポーツ・文化活動を行っていますか	小学校（人）	中学校（人）	回答率（％）
行っている	150	149	73.5
行っていない	61	47	26.5

4. 保護者回答者数	回答数（人）	回答率（％）
下諏訪南小学校	70	22.7
下諏訪北小学校	44	14.3
下諏訪中学校	111	36.0
下諏訪社中学校	76	24.7

5. 教員回答者数	回答数（人）	回答率（％）
下諏訪中学校	11	47.8
下諏訪社中学校	12	52.2

6. 部活動顧問の経験（副顧問含む）	回答数（人）	回答率（％）
顧問を持っている	19	82.6
顧問を持っていない（顧問歴あり）	2	8.7
顧問を持っていない（顧問歴なし）	2	8.7

◆小学生児童回答

1. 地域移行に関する認知度	回答数（人）	回答率（％）
①よく知っている	23	10.9
②どちらかと言えば知っている	48	22.7
③どちらかと言えば知らない	47	22.3
④ほとんど知らない	93	44.1

※「①よく知っている＋②どちらかと言えば知っている」（33.6％）で、「③どちらかと言えば知らない＋④ほとんど知らない」（66.4％）となっています。

2. 進学する中学校で部活動（休日は部活動または地域クラブ活動） または現在行っているスポーツ・文化芸術活動をする予定がありますか	回答数 （人）	回答率 （％）
①部活動（休日は部活動または地域クラブ）をやる予定	38	18.0
②現在の活動（部活にない種目等）を続ける予定（スイミング、柔道、書道、 合唱など）	30	14.2
③①、②両方の活動をやる予定	9	4.3
④スポーツ・文化芸術活動をする予定はない	10	4.7
⑤わからない	124	58.8

※中学校進学後に部活動や地域クラブ活動を行うか「⑤わからない」と回答した児童が約 60％となっています。

3. 活動をする理由は何ですか	回答数（人）	回答率（％）
①仲間ができるから	39	13.9
②興味(きょうみ)のある活動ができるから	39	13.9
③心や体をきたえたり、新たな考えを生み出す力や自分の思いを伝える 力を身につけたりしたいから	47	16.8
④仲間と協力したり、きまりやルールを守る力が身につくから	35	12.5
⑤試合に勝ったり賞を取ったりできるから	47	16.8
⑥努力することの大切さが学べるから	40	14.3
⑦専門性の高い知識や技術を身につけることができるから	5	1.8

⑧ひまをもて余(あま)さないですむから	7	2.5
⑨進学に有利になるから	5	1.8
⑩安く活動できるから	7	2.5
⑪親や親せきに勧(すす)められたから	9	3.2

※1位は「③心や体をきたえたり、新たな考えを生み出す力や自分の思いを伝える力を身につけたりしたいから」、2位は同数で「①仲間ができるから」「②興味(きょうみ)のある活動ができるから」となっています。

4. 活動をしらない理由は何ですか	回答数 (人)	回答率 (%)
①やってみたい活動がないから	3	30.0
②自由な時間がほしいから	4	40.0
③学業との両立に不安があるから	1	10.0
④スポーツ・文化芸術活動に興味がないから	1	10.0
⑤活動する費用が負担になるから	0	0.0
⑥活動する時間が無いから (習い事や家庭の事情など)	0	0.0
⑦人間関係に不安があるから	1	10.0

※1位は「②自由な時間がほしいから」、2位は「①やってみたい活動がないから」、3位は「③学業との両立に不安があるから」「④スポーツ・文化芸術活動に興味がないから」「⑦人間関係に不安があるから」となっています。

5. 休日の地域クラブ活動ができるようになった場合に期待すること	回答数 (人)	回答率 (%)
①休日でも学校部活動と同じ活動ができること	75	15.5
②現在の学校部活動にない種目・分野等の活動もできるようになること	54	11.2
③複数の種目等の活動を並行(へいこう)してできること	21	4.3
④同じ種目や活動であっても、自分のレベルに合った活動を選べること (大会・コンクールで上位を目指す、活動を楽しむなど)	80	16.5
⑤自分の学校以外の生徒、または他の年代の人と活動ができること	50	10.3
⑥専門性の高い指導が受けられること	42	8.7
⑦小中と続けて活動ができること	71	14.7
⑧設備の整った環境で活動できること	55	11.4
⑨複数の種目等で大会・コンクールに出場できるようになること	36	7.4

※1位は「④同じ種目や活動であっても、自分のレベルに合った活動を選べること」、2位は「①休日でも学校部活動と同じ活動ができること」、3位は「⑦小中と続けて活動ができること」となっています。

6. 地域クラブ活動をする場合に不安なこと	回答数 (人)	回答率 (%)
① 希望する活動ができるか	130	21.2

② 会費や道具代などの費用が増えないか	64	10.5
③ 活動場所までの移動の方法があるか	31	5.1
④ どんな人が指導者になるのか	106	17.3
⑤ 人間関係のトラブルにどのように対応するのか	73	11.9
⑥ 安全に活動ができるのか	87	14.2
⑦ 学校生活を一番に考えた活動にしてくれるか（練習時間、活動の時間帯、学校行事やテストなど）	50	8.2
⑧ 個人の特性（とくせい）や障（しょう）がい等に合わせた指導をしてくれるのか	27	4.4
⑨ 地域クラブに入らないと仲間はずれにならないか	44	7.2

※1位は「①希望する活動ができるか」、2位は「④どんな人が指導者になるのか」3位は「⑥安全に活動ができるのか」となっています。

7. 平日（月～金）に、スポーツ活動や文化芸術活動をどのくらいやりたいですか	回答数（人）	回答率（％）
①やらなくてよい	12	5.7
②1日	26	12.3
③2日	72	34.1
④3日	66	31.3
⑤4日	21	10.0
⑥5日	14	6.6

※1位は「③2日」、2位は「④3日」、3位は「②1日」となっています。

8. 休日（土日）に、スポーツ活動や文化芸術活動をどのくらいやりたいですか	回答数（人）	回答率（％）
①やらなくてよい	68	32.2
②1日	101	47.9
③2日	42	19.9

※1位は「②1日」、2位は「①やらなくてよい」となっています。

◆中学生生徒回答

1. 現在、行っている種目等	回答数（人）	回答率（％）
①学校部活動（運動系）に所属している	55	28.1
②学校部活動（文化系）に所属している	37	18.9
③民間クラブ（運動系）に所属している	37	18.9
④民間クラブ（文化系）に所属している	3	1.5
⑤学校部活動と民間クラブに所属している	17	8.7
⑥無所属	47	24.0

※部活動（運動系＋文化系）に所属している割合は47%（約半数）で、所属していない生徒は24%（約1/4）となっています。

2. 地域移行に関する認知度	回答数（人）	回答率（%）
①よく知っている	19	9.7
②どちらかと言えば知っている	53	27.0
③どちらかと言えば知らない	47	24.0
④ほとんど知らない	77	39.3

※「①よく知っている」＋「②どちらかと言えば知っている」＝36.7%、「③どちらかと言えば知らない」＋「④ほとんど知らない」＝63.3%で多くの生徒に知られていない状況です。

3. 現在の活動を行う目的・理由	回答数（人）	回答率（%）
①仲間ができるから	74	12.4
②興味のある活動ができるから	85	14.2
③体力や精神力、創造力や表現力が身につくから	85	14.2
④社会性、協調性、規律性が身につくから	33	5.5
⑤試合に勝ったり賞を取ったりできるから	53	8.9
⑥達成感（成功体験）が得られること	89	14.9
⑦努力することの大切さを学べるから	73	12.2
⑧専門性の高い知識や技術が習得できるから	24	4.0
⑨ひまを持て余さないですむから	20	3.4
⑩進学に有利になるから	10	1.7
⑪安価で活動できるから	3	0.5
⑫心身の健康・体づくりのため	48	8.0

※1位は「⑥達成感（成功体験）が得られること（14.9%）」、2位は「②興味のある活動ができるから（14.2%）」、「③体力や精神力、創造力や表現力が身につくから（14.2%）」となっています。

4. 現在、無所属の理由	回答数（人）	回答率（%）
①やってみたい活動の学校部活動や地域クラブ等がないから	2	4.2
②自由な時間がほしいから	9	18.8
③学業との両立に不安があるから	4	8.3
④スポーツ・文化芸術活動に興味がないから	0	0.0
⑤活動する費用が負担になるから	1	2.1
⑥活動する時間が無いから（習い事や家庭の事情など）	4	8.3
⑦人間関係に不安があるから	13	27.1
⑧一時期所属していたが、やめてしまったから	14	29.2

※1位は「⑧一時期所属していたが、やめてしまったから」、2位は「⑦人間関係に不安があるから」、3位は「②自由な時間がほしいから」となっています。

5. 現在のスポーツ・文化芸術活動でやりたい活動ができているか	回答数（人）	回答率（％）
①できている	145	97.3
②できていない	4	2.7

※「①できている」が97.3%と、多くの生徒から出来ていると回答がありました。

6. やりたい活動やできない理由（自由記述）
ダンス
器械体操
続けられるか心配
塾後で活動を制限されているから

※部活動にはない「ダンス」や「器械体操」が挙げられました。

7. 主な（最も多い）活動における活動の場所までの主な移動手段	回答数（人）	回答率（％）
①車（親の送迎等）	70	47.0
②自転車	7	4.7
③電車やバス	6	4.0
④徒歩	35	23.5
⑤所属している校内で実施	31	20.8

※1位は「①車（親の送迎等）」、2位は「④徒歩」、3位は「⑤所属している校内で実施」となりました。

8. 今後、休日の活動が地域クラブ活動になった場合に期待すること	回答数（人）	回答率（％）
①平日の学校部活動と同じ活動ができること	98	18.8
②現在の部活動にない種目・分野等の活動もできるようになること	61	11.7
③複数の種目等の活動を並行してできること	21	4.0
④同じ種目や活動であっても、自分のレベルに合った活動を選べること（大会・コンクールで上位を目指す、活動を楽しむなど）	71	13.6
⑤自校以外の生徒、または他世代との活動ができること	42	8.1
⑥専門性の高い指導が受けられること	72	13.8
⑦小中と継続して活動ができること	31	6.0
⑧設備の整った環境で活動できる	90	17.3
⑨複数の種目等で大会・コンクールに出場できるようになること	35	6.7

※1位は「①平日の学校部活動と同じ活動ができること」、2位は「⑧設備の整った環境で活動できる」、3位は「⑥専門性の高い指導が受けられること」となっています。

9. 今後、地域クラブ活動に移行する場合に不安なこと	回答数（人）	回答率（％）
①希望する活動ができるか	85	14.8
②会費や道具代などの費用負担が増えないか	88	15.3
③平日の活動と休日の活動の内容の一貫性がなくなるか	48	8.3
④平日の部活動の仲間で大会等に参加が出来なくなってしまうのではないかな	38	6.6
⑤活動場所までの移動時間がかかること。移動手段があるか	43	7.5
⑥教育的観点に立った指導をしてもらえるか	26	4.5
⑦人間関係のトラブルへの対応	55	9.6
⑧事故防止のための安全管理体制	19	3.3
⑨学校生活に配慮した活動時間（練習時間が長い、夜間の活動、テスト期間への配慮など）	63	11.0
⑩複数種目の活動をして参加できる大会が少ないのではないかな	9	1.6
⑪複数種目の活動をしている場合に、専念していないと団体競技や団体で出場するコンクール等では大会出場させてもらえないのではないかな	4	0.7
⑫進学や推薦・内申等に影響がでないか	14	2.4
⑬個人の特性や障がい等に配慮した指導が行われるか	9	1.6
⑭地域クラブに入らないと仲間外れになってしまうか	35	6.1
⑮地域クラブに有力者が集まり選抜となって、全国大会の出場枠が取られてしまわないか	22	3.8
⑯学校職員の目が届かなくなるのではないかな	17	3.0

※1位は、「②会費や道具代などの費用負担が増えないか」、2位は「①希望する活動ができるか」、3位は「⑨学校生活に配慮した活動時間（練習時間が長い、夜間の活動、テスト期間への配慮など）」となっています。

10. 平日（月～金）に、スポーツ活動や文化芸術活動をどのくらいやりたいですか	回答数（人）	回答率（％）
①やらなくてよい	14	7.1
②1日	5	2.6
③2日	26	13.3
④3日	70	35.7
⑤4日	50	25.5
⑥5日	31	15.8

※1位は「④3日」、2位は「⑤4日」、3位は「⑥5日」となっています。

11. 休日（土日）に、スポーツ活動や文化芸術活動をどのくらいやりたいですか	回答数（人）	回答率（％）
①やらなくてよい	41	20.9
②1日	126	64.3
③2日	29	14.8

※1位は「②1日」、2位は「①やらなくてよい」、3位は「③2日」となっています。

◆保護者回答

1. お子様が現在行っているスポーツ・文化芸術活動	回答数（人）	回答率（％）
①学校部活動（運動系）に所属している	56	18.6
②学校部活動（文化系）に所属している	44	14.6
③民間クラブ（運動系）に所属している	105	34.9
④民間クラブ（文化系）に所属している	4	1.3
⑤学校部活動と民間クラブに所属している	34	11.3
⑥無所属	58	19.3

※部活動（運動系＋文化系）に所属している割合は33.2%で、所属していない生徒は19.3%となっています。運動系の民間クラブへの所属は34.9%となっています。

2. 地域移行に関する認知度	回答数（人）	回答率（％）
①よく知っている	24	8.0
②どちらかと言えば知っている	128	42.5
③どちらかと言えば知らない	77	25.6
④ほとんど知らない	72	23.9

※「①よく知っている」＋「②どちらかと言えば知っている」＝50.5%に対して、「③どちらかと言えば知らない」＋「④ほとんど知らない」＝49.5%と拮抗しています。

3. 子どもが現在行っている活動に期待していること	回答数（人）	回答率（％）
①仲間ができること	170	15.2
②興味のある活動ができること	143	12.8
③体力や精神力、創造力や表現力が身につくこと	148	13.2
④社会性、協調性、規律性、上下関係などが身につくこと	161	14.4
⑤試合やコンクールで上位の成績を獲得すること	40	3.6
⑥達成感（成功体験）を得られること	139	12.4
⑦努力することの大切さを学べること	157	14.0
⑧専門性の高い知識や技術を習得できること	52	4.6
⑨子どもの面倒を見てくれること	0	0.0
⑩進学に有利になること	2	0.2

⑪安価で活動できること	27	2.4
⑫心身の健康・体づくりに役立つこと	80	7.1

※1 位は「①仲間ができること」、2 位は「④社会性、協調性、規律性、上下関係などが身につくこと」、3 位は「⑦努力することの大切さを学ぶこと」となっています。

4. 現在、無所属の理由	回答数（人）	回答率（％）
①子どもが興味を持った学校部活動や地域クラブ等がないから	11	19.0
②子どもがやりたいといわないから	21	36.2
③学業との両立に不安があるから	0	0.0
④活動が必要と思わないから	1	1.7
⑤活動する費用が負担になるから	2	3.4
⑥活動する時間が無いから（習い事や家庭の事情など）	4	6.9
⑦人間関係に不安があるから	0	0.0
⑧一時期所属していたが、やめてしまったから	8	13.8
⑨その他	11	19.0

※1 位は「②子どもがやりたいといわないから」、2 位は「①子どもが興味を持った学校部活動や地域クラブ等がないから」、3 位は「⑧一時期所属していたが、やめてしまったから」となっています。

5. 現在のスポーツ・文化芸術活動でやりたい活動ができていますか	回答数（人）	回答率（％）
①できている	222	91.4
②できていない	21	8.6

※「①できている」が 91.4％と、多くの保護者から出来ていると回答がありました。

6. 体験させたい活動やできない理由（自由記述）
民間クラブで現在お世話になっていますが、コーチの差別的発言やパワハラ発言が多すぎて期待する活動とは程遠い事を実感しています。指導者の方には私情を挟む事なく、教える立場として講習などを受けた上での指導をお願いしたいと思います。
バドミントン
卓球をしたかったが、クラブや部活がなかった
大会に参加するための十分な練習時間が足りていない、ただ、大会に出ても自信につながらないと感じています。過剰な練習時間は必要ないと思うが、子ども自身が練習したいと思った時に練習できる環境は必要だと思います。町には大人向けのトレーニング環境やスポーツ団体・文化団体があるので、中学生くらいの子供たちにも解放してほしいです。親や先生だけでない大人の目もあり、子供たちとの交流の場になっていたら嬉しいです。
陸上
科学や芸術の専門的なことをまなびたいが、近くに施設や機会がない

チームでおこなうスポーツをやってほしかったが、スポーツチーム(外部の)はいらなければならなくなるので あきらめました。外部のチームに入るには、お金や時間がたくさん必要になり、難しいなと思いました。
指導者がいない
他に一緒にやっている子供がいない為、仲間ができれば・・と思う。
陸上をさせてみたかったが、部活動がなかった
継続性が無く、なかなか技術が身につかない。
運動部ですが、指導者不在のため、基本的なこともままならず、上達もできない
学校の部活とは違い地域のコーチが指導経験が少なかったら子供の扱いがおかしい事があり子供達が混乱したりしている。責任者やキャプテンなどが明確にないので統率しづらい。
限られた中から選んでやっているのが実情。選択肢が増えれば違うのかなと思う。
本人が本当にしたい文化部が中学校にはないようです。
ただやっているだけでなく、チャレンジすることや失敗、悔しい思いなどを仲間と一緒に乗り越えていく経験をしてほしいです。 活動団体の目的が子ども向けのビジネスになっていて、中身に満足できていないです。 部活動も地域移行していく上で、その目的を明確にして教えてほしいです。
顧問の先生が未経験の為に指導出来ず、社体の時間も外部コーチがいない為、教えてもらうことができないから
人数が少ないため、試合に出られない可能性がある
入りたい部活が中学になかった。顧問が勝ちにこだわり、うちの子を含む一部の子たちが基本さえ教えてもらえなかったり、「努力が足りない」「努力しても上達しない人は一生上達しない」など、努力を否定するような言葉があったりして、子どもが部活に出られなくなったことがある。 顧問が変わってからは、そういうことは無くなったが、1年生の部活をほぼ無駄にした感じがある。
活動の回数や時間が少ない。

※指導者に関する課題や民間スポーツクラブの高額な月謝による負担、やりたい部活やクラブがないなどが多く挙げられました。

7. お子様のスポーツ・文化芸術活動で負担に感じる事	回答数（人）	回答率（％）
①弁当の用意	32	6.9
②練習や試合、大会等の送迎	106	22.9
③ユニフォーム等の洗濯	5	1.1
④練習や試合・大会等での補助、当番	68	14.7
⑤活動に係る費用（道具、会費等）	74	16.0
⑥保護者同士の付き合い	37	8.0
⑦家族で過ごす時間が少ない	36	7.8
⑧子どもの勉強時間が確保できない	48	10.4
⑨指導者と方針が合わない	26	5.6

⑩その他	30	6.5
------	----	-----

※1 位は「②練習や試合、大会等の送迎」、2 位は「⑤活動に係る費用（道具、会費等）」、3 位は「④練習や試合・大会等での補助、当番」となっています。

8. 地域クラブの会費（月単位）としていくらまでなら許容できますか	回答数（人）	回答率（％）
① 1, 0 0 0 円未満	27	9.0
② 1, 0 0 0 円以上 2, 0 0 0 円未満	66	21.9
③ 2, 0 0 0 円以上 3, 0 0 0 円未満	87	28.9
④ 3, 0 0 0 円以上 4, 0 0 0 円未満	32	10.6
⑤ 4, 0 0 0 円以上 5, 0 0 0 円未満	60	19.9
⑥ 5, 0 0 0 円以上	29	9.6

※1 位は「③ 2,000 円以上 3,000 円未満」、2 位は「② 1,000 円以上 2,000 円未満」、3 位は「⑤ 4,000 円以上 5,000 円未満」となっています。

9. 現在のスポーツ・文化芸術活動のため自家用車で送迎している場合の週の総送迎時間をお答えください	回答数（人）	回答率（％）
① 1 0 分未満	59	24.3
② 1 0 分以上 2 0 分未満	54	22.2
③ 2 0 分以上 3 0 分未満	34	14.0
④ 3 0 分以上	96	39.5

※1 位は「④ 30 分以上」、2 位は「① 10 分未満」、3 位は「② 10 分以上 20 分未満」となっています。

10. 地域クラブに移行した場合に自家用車で送迎する場合の許容できる週の送迎時間をお答えください	回答数（人）	回答率（％）
① 1 0 分未満	52	17.3
② 1 0 分以上 2 0 分未満	107	35.5
③ 2 0 分以上 3 0 分未満	84	27.9
④ 3 0 分以上	58	19.3

※1 位は「② 10 分以上 20 分未満」、2 位は「③ 20 分以上 30 分未満」、3 位は「④ 30 分以上」となっています。

11. 休日の活動が地域クラブ活動になった場合に期待すること	回答数（人）	回答率（％）
①休日も学校部活動と同じ活動ができること	126	13.6
②現在の部活動にない種目等の活動もできるようになること	120	13.0
③複数の種目等の活動を並行してできること	26	2.8
④同じ種目や活動であっても、自分のレベルに合った活動を選べること（大会やコンクール等で上位を目指す、活動を楽しむなど）	105	11.4

⑤自校以外の生徒、または他世代・地域住民との活動ができること	118	12.8
⑥専門性の高い指導を受けられること	156	16.9
⑦小中と継続して活動ができること	58	6.3
⑧設備の整った環境で活動できること	115	12.4
⑨複数の種目等で大会・コンクールに出場できるようになること	24	2.6
⑩部活動顧問の負担が減り、学務に専念できること	54	5.8
⑪保護者も地域指導者として関われる可能性があること	14	1.5
⑫その他	9	1.0

※1 位は「⑥専門性の高い指導を受けられること」、2 位は「①休日も学校部活動と同じ活動ができること」、3 位は「②現在の部活動にない種目等の活動もできるようになること」となっています。

12. 地域クラブ活動に移行する場合に不安なこと	回答数（人）	回答率（％）
①希望する活動ができるか	122	11.5
②会費や道具代などの費用負担が増えないか	122	11.5
③平日の活動と休日の活動の内容の一貫性がなくなるか	78	7.3
④平日の活動のメンバーで大会・コンクールに参加できなくなるか	33	3.1
⑤活動場所まで移動時間がかかる。送迎の負担が増えないか	121	11.4
⑥教育的観点に立った指導をしてもらえるか	69	6.5
⑦人間関係のトラブルへの対応	97	9.1
⑧事故防止のための安全管理体制	56	5.3
⑨学校生活に配慮した活動時間（練習時間が長い、夜間の活動、テスト期間への配慮など）	99	9.3
⑩複数種目の活動をして参加できる大会が少ないのではないか	5	0.5
⑪複数種目の活動をしている場合に、専念していないと団体競技では大会出場させてもらえないのではないか	7	0.7
⑫進学や推薦・内申等に影響がでないか	19	1.8
⑬個人の特性や障がい等に等に配慮した指導が行われるか	31	2.9
⑭地域クラブに入らないと仲間外れになってしまうか	22	2.1
⑮地域クラブに有力者が集まり選抜となって、全国大会の出場枠が取られてしまわないか	21	2.0
⑯学校職員の目が届かなくなるのではないか	46	4.3
⑰練習や試合、大会での補助、当番の負担、大会運営・審判ボランティア等を強いられないか	92	8.6
⑱教員の負担が変わらないのではないか	18	1.7
⑲その他	7	0.7

※1 位は同数で「①希望する活動ができるか」「②会費や道具代などの費用負担が増えないか」、3 位は「⑤活動場所まで移動時間がかかる。送迎の負担が増えないか」となっています。

13. 平日（月～金）に、スポーツ活動や文化芸術活動をどのくらい取り組んでほしいですか	回答数（人）	回答率（％）
①やらなくてよい	9	3.0
②1日	21	7.0
③2日	55	18.3
④3日	107	35.5
⑤4日	83	27.6
⑥5日	26	8.6

※1位は「④3日」、2位は「⑤4日」、3位は「③2日」となっています。

14. 休日（土日）に、スポーツ活動や文化芸術活動をどのくらい取り組んでほしいですか	回答数（人）	回答率（％）
①やらなくてよい	52	17.3
②1日	204	67.8
③2日	45	15.0

※1位は「②1日」、2位は「①やらなくてよい」、3位は「③2日」となっています。

◆教職員回答

1. 地域移行に関する認知度	回答数（人）	回答率（％）
①よく知っている（6人）	6	26.1
②どちらかと言えば知っている（16人）	16	69.6
③どちらかと言えば知らない（1人）	1	4.3
④ほとんど知らない（0人）	0	0.0

※「①よく知っている」＋「②どちらかと言えば知っている」＝95.7%で、「③どちらかと言えば知らない」＋「④ほとんど知らない」＝4.3%で、ほとんどの教職員は知っていました。

2. 顧問、顧問歴有：大事にしている（た）こと 顧問歴無：顧問を持った場合に大事にしたいこと	回答数（人）	回答率（％）
①生徒間の人間関係づくり	17	18.3
②興味のある活動の保障	5	5.4
③体力や精神力、創造力や表現力の育成	10	10.8
④社会性、礼儀、協調性、規律性、上下関係等の育成	15	16.1
⑤試合やコンクールで上位成績の獲得	4	4.3
⑥達成感（成功体験）の獲得	14	15.1
⑦努力することの大切さの体感	10	10.8
⑧専門性の高い知識や技術の習得	4	4.3
⑨進学につなげること	0	0.0

⑩活動費を抑えること	1	1.1
⑪心身の健康・体づくり	5	5.4
⑫生徒とのコミュニケーション	7	7.5
⑬その他	1	1.1

※1位は「①生徒間の人間関係づくり」、2位は「④社会性、礼儀、協調性、規律性、上下関係等の育成」、3位は「⑥達成感（成功体験）の獲得」となっています。

3. 学校部活動の指導で負担に感じる（た）こと	回答数（人）	回答率（％）
①経験のない種目や分野等の指導	15	26.3
②休日や平日の指導時間	15	26.3
③保護者への対応	8	14.0
④会場の確保や活動計画の作成	3	5.3
⑤施設・設備・用具の不備	1	1.8
⑥活動に係る費用の自己負担	1	1.8
⑦大会等の運営や協会等への協力	7	12.3
⑧部費等の金銭管理	3	5.3
⑨子どもの目的や技能レベルの違い	3	5.3
⑩子どもの家庭環境等に配慮した指導（特に費用面）	0	0.0
⑪その他	1	1.8

※1位は同数で「①経験のない種目や分野等の指導」「②休日や平日の指導時間」、3位は「③保護者への対応」となっています。

4. 休日の活動が地域クラブ活動に移行した場合、生徒にとって望ましいと思われること	回答数（人）	回答率（％）
①休日も学校部活動と同じ活動ができること	9	14.8
②現在の部活動にない種目や分野等の活動もできるようになること	9	14.8
③複数の種目や分野等の活動を並行してできること	0	0.0
④自分に合った活動を選べること	13	21.3
⑤自校以外の生徒、または他世代・地域住民との活動ができること	7	11.5
⑥専門性の高い指導を受けられること	16	26.2
⑦小中と継続して活動できること	1	1.6
⑧設備の整った環境で活動できること	4	6.6
⑨複数の種目等で大会・コンクールに出場できるようになること	1	1.6
⑩その他	1	1.6

※1位は「⑥専門性の高い指導を受けられること」、2位は「④自分に合った活動を選べること」、3位は二つあり「①休日も学校部活動と同じ活動ができること」、「②現在の部活動にない種目や分野等の活動もできるようになること」となっています。

5. 地域クラブ活動に移行する場合に心配なこと	回答数（人）	回答率（％）
①地域クラブ活動への移行が進まず、学校部活動が継続されないか	10	12.3
②地域クラブ活動への移行が進んでいるところと進まないところの地域格差	9	11.1
③地域クラブ活動が持続可能なものになるか（継続的に指導者や財源の確保ができるか）	14	17.3
④教職員が地域指導者をやらざるを得ない状況にならないか	13	16.0
⑤環境整備が進まず、スポーツ・文化芸術活動ができなくなる生徒はいないか	7	8.6
⑥経済力の差によって活動ができない生徒が生じるのではないか	2	2.5
⑦地域指導者は教育的観点に立った指導ができるか	4	4.9
⑧部活動と地域クラブ活動の指導の一貫性をどのように保つか	8	9.9
⑨活動場所までの生徒の移動手段はあるのか	2	2.5
⑩かえって生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会が減少しないか	2	2.5
⑪事故や人間関係のトラブル等に対して対応できるのか	5	6.2
⑫保護者等の理解を得ることは難しいのではないか	0	0.0
⑬学校生活に配慮した活動ができるのか （練習時間が長い、夜間の活動、テスト期間への配慮など）	5	6.2
⑭休日の学校施設の貸し出し、備品管理の負担が増えるのではないか	0	0.0

※1 位は「③地域クラブ活動が持続可能なものになるか（継続的に指導者や財源の確保ができるか）」、
2 位は「④教職員が地域指導者をやらざるを得ない状況にならないか」、3 位は「①地域クラブ活動への移行が進まず、学校部活動が継続されないか」となっています。

6. 地域移行が実施された際に指導者として関わり続けたいですか。 （兼職兼務）	回答数（人）	回答率（％）
①関わりたい	13	56.5
②関わりたくない	7	30.4
③その他	3	13.0

※半数以上の教職員から「①関わりたい」と回答がありました。

7. 自由記述
自分の専門の分野であれば関わっていきたい。
報酬が支払われること。
学校外の指導者と同等の報酬を得られること、学校の配慮があるならばやってもよい。
自分の専門性を活かせる競技であること、私生活との兼ね合い(都合)を考慮してくれること、指導方針を理解してくれること等、条件が整えばやってもよい。
地域移行の方向が見えないため、関わるべきかどうか分からない。部活動同様の活動や負担であれば、

生徒のために協力はいくらでもしたい。
部活動と一貫性のある指導ができるのであれば
現時点では不透明なことが多く中途半端に関わることは、かえって地域移行の妨げになるのではない か。

※指導者として関わり続ける条件として、自分の専門分野であることや謝礼が支払われることなどが挙げられました。

第6章 基本目標と基本方針

1 基本目標

長野県が策定した地域クラブ活動推進ガイドラインにおいては、「生徒が生涯にわたってスポーツ・文化芸術に親しむ機会を確保し、生徒の心身の健全育成等を図るためだけでなく、地域住民にとってもより良い地域スポーツ・文化芸術環境を目指し、地域のスポーツ・文化芸術団体、学校等の関係者の理解と協力の下、生徒の活動の場として、地域クラブ活動を行う環境を速やかに整備する」と基本目標を掲げていることから、下諏訪町においても、部活動の地域移行を速やかに進めるとともに、中学生が自ら選択するスポーツや文化芸術活動を行うことが出来るよう、地域全体でスポーツ・文化芸術活動の環境整備を推進します。

2 基本方針

基本目標を達成するため、以下の方針により部活動の地域移行を推進します。

方針1：生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境の整備

- ・生徒が主体的に自ら選択したスポーツや文化芸術活動を実践できる多様な環境の整備
- ・生涯にわたりスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保
- ・部活動が担ってきた教育的意義を継承した活動の推進

方針2：様々な運営主体による多様な地域クラブ活動の育成・支援・展開

- ・生涯活躍の場として新たな指導者の発掘と育成
- ・指導を望む教職員等の兼職兼業による地域クラブ活動の支援
- ・既存の地域クラブに加え、民間事業者、企業、団体等の参入を促し、多様な活動を展開

方針3：適正な活動と持続可能な運営体制の構築

- ・既存の地域クラブにおける持続可能な運営体制等に対する支援
- ・受益者負担により自立した運営を継続できる仕組みの構築

- ・ボランティアを基本としない質の高い安全な指導体制の構築

方針 4：広域的な視点を持った地域移行の早期実現

- ・休日部活動の移行を優先するものの、平日部活動の移行時期の検討の推進
- ・近隣市町村との連携を検討し、広域的な視点を持った地域移行の実現
- ・効果検証を行うため、アンケート調査等の実施

第 7 章 下諏訪町（下諏訪町教育委員会）が取り組むこと

下諏訪町は、生徒が主体の部活動の地域移行の実現に向け、「下諏訪町中学校部活動地域移行推進計画」を策定し、令和 6 年度から令和 8 年度を集中推進期間として、休日部活動が円滑に地域へ移行できることとし、以下のとおり取り組みます。

1 推進体制の確立

- （1）部活動の地域移行を実現させるため、「下諏訪町中学校部活動地域移行推進協議会」（以下、「推進協議会」とする。）を設置する。
- （2）部活動地域移行総括コーディネーターを設置し、より詳細で具体的な調整を図る。
- （3）地域スポーツ・文化芸術担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等との連携を推進する。
- （4）必要となる財源の確保に努める。

2 指導者の確保及び育成

- （1）指導者の把握と人材確保のための候補者の把握及び発掘
- （2）町スポーツ協会や文化芸術団体等との連携による指導者育成
- （3）学校との連携による教職員による指導に対する支援と協力
- （4）各種研修の実施

3 地域クラブの支援及び創出

- （1）部活動の地域移行に伴う中学生のニーズ把握
- （2）スポーツ協会専門競技部の地域スポーツクラブへの移行への協力・指導
- （3）活動場所の確保等、活動に関する協力

第8章 地域移行の進め方・スケジュール

下諏訪町の中学生が自ら選択したスポーツや文化芸術活動を行うことができ、生涯にわたり活動できる環境を整備するとともに、学校の働き方改革の一環として行われる教職員の部活動の指導に要する負担を軽減させるため、部活動の地域移行を段階的に進めます。

進め方としては、現在活動している部活動における指導者体制や受け皿組織のクラブ化が整備される等の要件を満たした種目を対象に移行することとし、具体的には以下の三段階を想定しています。

1 推進体制の検討・確立

- (1) 準備会を設置し、中学校部活動に移行する際の課題と各競技団体における指導者状況などの現状把握を行う。
(令和5年5月～ 実施済)
- (2) 検討協議会を設置し、専門競技等ごとの移行の可否、スケジュール、条件等を把握する。
(令和6年5月～ 実施済)
- (3) 部活動の地域移行に関するアンケート調査の実施による、現状及びニーズの把握を図る。
(令和6年9月～ 実施済)
- (4) 推進計画を策定し、計画に沿った推進を図る。
(令和6年11月策定 実施済)
- (5) 推進協議会を設置し、移行に向けて具体的な推進を図る。
(令和7年4月～ 実施予定)
- (6) 部活動地域移行総括コーディネーターを配置し、移行に係る詳細な調整を開始する。
(令和7年4月～ 実施予定)

2 生徒、保護者への説明、指導者の確保、受け皿組織の調整

- (1) 地域移行に伴い、生徒・保護者に対する説明会を開催し理解を得る。
- (2) 学校部活動が担っている（担ってきた）教育的意義も含めた指導ができる指導者の把握と養成を行う。
- (3) スポーツ協会や文化芸術団体等と移行に向けた組織のあり方について検討する。
- (4) 指導者に対する指導方法などの研修会を開催する。
- (5) 部活動顧問と指導者との間で、指導方針や指導方法等について調整を行う。

3 受け皿組織の地域クラブ化へ

- (1) スポーツ協会専門競技部や文化芸術団体を地域クラブ化することで、持続可能な組

織としていく。

- (2) 下諏訪町だけでは解決できない課題等により、地域移行が困難な種目は、生徒の自主的な選択肢を狭めることがないように近隣市町村と連携・協力し受け皿組織を確保する。

第9章 スポーツ・文化活動等の受け皿組織の整備と運営について

1 地域クラブについて

地域クラブは学校の部活動とは別の地域主体の組織です。当面の運営は推進協議会（事務局：教育こども課 教育総務係）で支援・協力しますが、将来的には地域人材により自立した組織としていくことを目標としています。

2 対象者について

当面は、下諏訪町内の中学生を対象としますが、推進協議会の協議により他市町村の中学生を受け入れることもあります。

3 活動場所について

町内の施設での活動を基本とし、必要に応じて町外施設で活動することもあります。また、活動場所への移動は、原則として各自で対応していただきます。

4 活動時間について

当面は、本推進計画における運営方針に基づき、土曜日もしくは日曜日またはその両日で、活動時間は各日ともに3時間未満とします。但し、土曜日・日曜日両日行った場合は、翌日に当たる月曜日の活動は休み（回復日）とします。

また、平日も含めた完全移行の際の日数や時間については、長野県からの指針及びこれまでの部活動の状況を踏まえ、推進協議会で決定します。

5 運営費について

中学生が地域クラブへ参加するにあたり、傷害保険料、会場使用料、指導者報酬、遠征費、ユニホーム代、事務費等の必要経費については自己負担とします。

6 指導者について

地域クラブにおける指導者は、推進協議会に名簿を登録していただくほか、年に数回程

度の指導者研修を受講していただきます。

指導者は、下諏訪町に居住・勤務していなくても登録は可能です。但し、居住地からの交通費は支給しません。

指導に伴う指導料は、他自治体の事例などを参考に適正な金額を算出し、指導時間に応じてお支払いする予定としています。

遠征に伴う経費は、他自治体の事例などを参考に適正な金額を算出しお支払いいたします。

7 大会等への参加について

当面は、中学校の部活動として、中学校単位での参加（一部合同チームによる参加もある）とし、地域クラブとしての参加は、受け入れ体制や指導方針等が確立した段階で検討する。

第10章 その他

この計画は、今後の国及び長野県の方針やガイドライン等に変更や訂正等が生じた場合は、推進協議会等における協議のうえ、見直しを行います。